

万太郎谷大ベタテ沢山行報告書

【山 域】 谷川連峰 万太郎谷 大ベタテ沢

【日 時】 7月20日（月曜日） 前夜発

【天 候】 晴れときどき曇り

【参加者】 CL：上茂 メンバー：平野（直）・井本・花島（記録）

【コースタイム】 林道終点 7:20～大ベタテ沢出合 8:20 ～ 二股 8:45～雪溪（前回敗退地点）9:05～
大スラブ 10:00～ 稜線 12:20～12:40 ～ 林道終点 13:40

【報 告】

出発2日前に上茂さんから二週前に敗退したリベンジ遡行の誘いを受けての山行でした。稲毛（平野宅）を21:00に出発し、湯沢ICを降りると路面に降雨の跡が散見されたが、見なかったことにして、神立除雪基地にテントを張り軽く2時間強の小宴会後、就寝。

翌朝、曇り空の中、近くのコンビニで朝食を済ませ、万太郎谷へ移動する。水量は前回より多い。大堰堤はこの2週間の間に何があったのか、山と化した流木に覆われていて魚道が通れず、高巻いて万太郎谷に入る。左岸から流入する2本目の沢が目指す大ベタテ沢（標高820m）で、その手前に前回確認できなかったカラホリ沢（同790m）が、今日は見落としようもない水量で本谷に流入している。これで前回の迷走原因が解決。程なく見覚えのある大ベタテ沢が現われホッとする。



（大ベタテ沢出合）



（二俣 右俣に入ります）

日が射ってきて暑い。沢なのにやたら暑い。気持ちは轟々と水の流れる、いかにも涼しげな本谷に揺れるが、チョロチョロの大ベタテ沢に入る。インゼルも水量の多い方を選んで進む。気休めに過ぎないが、たとえくるぶし程度であっても浸っていたい。快調に二股を通過し、前回断念した雪溪に到着。たった二週間でこんなに溶けるかってほど様相が一変していた。



（2週間前 完全なスノーブリッジ）



（今回 全面崩落しズタズタ）



(超えてきた雪渓)

必要な備えはするものの、自分で考える余地、未知の部分を残して、ドキドキ、ワクワク感を感じたい。それにしても沢のグレード評価が、曖昧と感じるのは私だけではないと思う。記録は、ひとつではなく、いくつかあためてみてその中から共通項を拾い事前検討する必要がある。5段滝と言うものの、下から全体が見えるわけでもなく、滝が連続しているだけで、巻いたり、登ったりしているうちに過ぎちゃったらしい。鮮明な記憶としては残っていない。残念！ 雪渓から上は、4人が揃って腰を下ろして休む場所がなく、傾斜が一段ときつくなる。河原歩きという中弛みが一切ない。稜線めがけて一直線に詰め上げている。



(下から見たスラブ滝)

いよいよ 30m スラブ滝が見えてくる。30mってナニッ。どこをどう測ると 30m なんだろう。矢印から上だけってことらしい。途中で一步を踏み出すのにかなり勇気のいる箇所があり、お助けを垂らしてもらう。その先からロープを出し、水流を左に横断し、右岸の灌木を支点に 25m 2 ピッチでクリアする。スラブながら凹凸はあり、何とかなるが、高度感はハンパねえ。その上は、ぬめった小滝の連続から腕とふくらはぎに容赦ない(踏み跡は心細いながらもあり 10 分程度の) ヤブ漕ぎ、木登りを経て稜線に這い出す。足を取られながら吾策新道を一気に下り、リベンジを果たす。

以 上

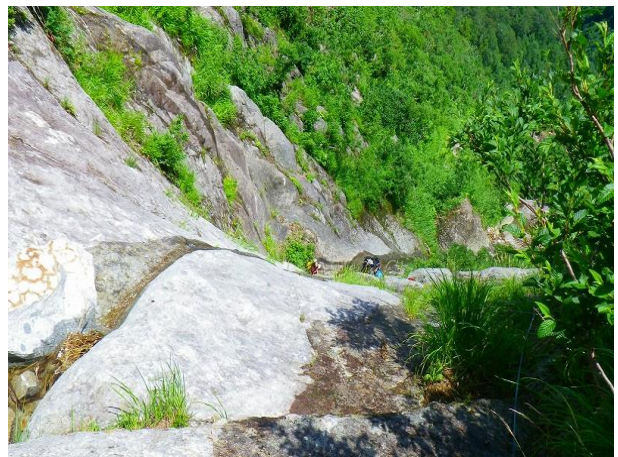
堆積した雪塊の中、時には左岸の泥と化した斜面に靴を突っ込み、時には堆積した雪塊を踏み越え、ムッとむせ返すような暑さにうんざりしたり、ヒヤッとした冷気で暑さを凌いだりを繰り返すこと約 10 分、雪渓を超える。

ドロドロの靴を洗い流し、先を進む。思えばあれがひとつ目のハイライト 5 段 60m 滝だったのかなあ。

今回記録は深読みせず、大堰堤から左岸 2 本目の沢に入り、二股は右へ、上部のスラブ滝は要ロープで支点が頼りない事、ヤブ漕ぎは 10 分程度という予備知識で臨んだ山行で、あまり記録に頼るとガイドブック片手の観光と化して、つまらない山行に陥る傾向があり、それは回避したかった。



(いよいよ傾斜が増してくる)



(上から見下ろしたスラブ滝)

